

正田洋一 議員レポート

ハイ

皆様！明けまして
おめでとうございます。
お元気ですか！

正田洋一事務所

〒723-0062 三原市本町 1-7-32

TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp

HP www.shoda-yoichi.jp

— ご挨拶 —

あけましておめでとうございます。議員は年賀状でのご挨拶は、法令違反の可能性がありますのでご遠慮させていただきました。ご無礼いたしました。

今回は2020年のアクションおよび2019年のご報告の号とさせて、いただきます。

まず、昨年は、私主催の政策討論会「政策カフェ」を立ち上げ、計6回開催させていただきました。また、学生さんを受け入れる議員インターンを、冬と夏に行いました。また、日々様々な課題解決に取り組んできました。取り組みの全部とはいきませんが今号の記事で報告させていただきます。平成から令和へ2期目の任期も後期になり、「若さと情熱」から「課題解決と説明責任を果たす」にシフトチェンジし、高い次元への活動にチェンジしてまいります。本年も変わらずご指導ご支援よろしく申し上げます。

正田洋一の「日々の絆」

2019年は、私主催の政策討論会「政策カフェ」を立ち上げました。

新事務所の2階で、原則、奇数月の第二火曜日の開催日とし、臨時開催も含め、計6回の開催を行いました。

2019年は、Facebook(SNS)のみでのご案内とさせていただいておりましたが、2020年は、別紙予定にてご案内させていただきますのでぜひともご参加いただきたくお願いいたします。なお、毎回郵送での案内が大変費用的に難しいため、Facebook(SNS)を活用もご検討いただくと幸いです。



第1回から第6回の日時、テーマは以下のとおりです。

| | 日時 | テーマ |
|-----|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 5月12日 | 1. 議員インターン課題 30年後の未来を創造し、10年後市長なら 2. 地域活性化のための施策 |
| 第2回 | 7月9日 | 1. 一般質問報告 本郷産業団地立地に伴う人口獲得施策 2. 経済効果を得る観光施策とは |
| 第3回 | 8月28日 | ※「インターン学生さんが運営する会」 1. 議員インターン課題 30年語の未来を創造し、10年後総理なら 2. 地域活性化とは |
| 第4回 | 9月11日 | 1. 議員インターン報告 30年後の未来を創造し、10年後総理なら 未来の働き方の提案(広島県内3位) 2. 一般質問報告 ブロック塀対策・空家対策について |
| 第5回 | 11月12日 | 1. 人口動態からみた未来のみはら ～このままでは2050年三原は廃墟の街になる |
| 第6回 | 12月18日 | 1. 一般質問報告 三原市人口ビジョンについて プログラミング教育必修化にむけた取り組みについて |

政策カフェを立ち上げた思いについて少し述べます。

私の政治姿勢として、令和時代に入り、「若さと情熱」から「課題解決と説明責任を果たす」というステージにバージョンアップしますと宣言しました。

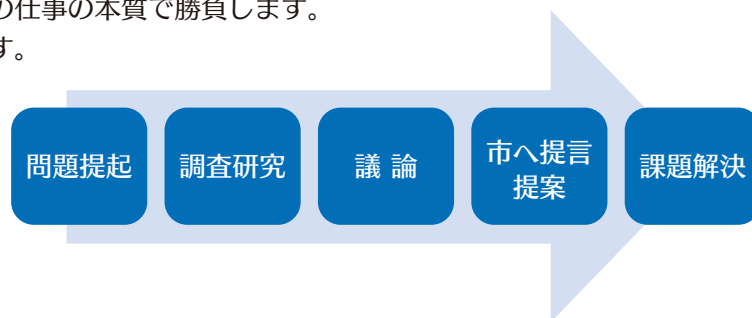
昨今、SNSなどで議員のパフォーマンスの自画自賛行動だけが目にふれるカタチとなり、議員が議会で日々のどの様に活動しているか知られていないと感じています。

議員の本質として、「課題解決と説明責任を果たす」行動して、議会でしっかり審議、市民意見の傾聴、議会での提言、議会報告をしっかりと見えるようにする。そして、市政に興味を持っていただきたいと考えました。

その形として政策カフェを立ち上げました。

私は、今までどおり議員の仕事の本質で勝負します。

概念図は以下のとおりです。



2020年(令和2年)には、更にもう一段バージョンアップします。日々問題提起いただいた課題解決に取り組む一方、未来を見据えた政策を考え、提案することによって、真に次世代につなぐ政策提案を行っていきます。

今が良ければよい。自分を支援してくれる人だけが利益を得ればよいといった、昨今の傾向を変えたい。そう考えています。

また、2021年3月末までに「2050年ビジョンの策定」を行います。2050年の理想の三原像。高度成長期に描いた豊かな未来ではなく、これからの低成長社会から見た幸せな未来のカタチを創造するものです。難しい課題だと思いますが取り組んでいきます。

議員インターンの受け入れについて

2019年は、冬と夏の2回、議員インターン生の受け入れを行いました。

インターン生？と思われるかもしれませんが、議員を目指す学生を預かったというわけではありません。政治と社会をつなぐ学生さんたちのプログラムです。

学生さんたちには興味は様々あるようですが、若者達の突き抜けた意見を、議員にぶつけるというコンセプトで運営されています。18から22歳の若者が議員活動に、しかも私に興味をもって勉強に来てくれることは大変うれしいことです。

このプログラムの運営団体は、ドットジェイピーという全国団体で、広島県内でも20~30人程度の議員が受け入れを行っています。三原でも冬2事務所、夏3事務所が受け入れを行いました。

このプログラムは2020年以降も続けていくつもりです。「相互の学び」、学生さんに政治と社会の仕組みを見せていく一方で、大人の押し付けでなく、彼らから思いを受け止め、私も学びになるように進めていきます。

具体的報告に入ります。

●2019年冬のインターン

2人の学生が来てくれました。

3つのプログラムをしました。

一つ目は未来自治体、これは、ドットジェイピーのテーマです。彼らが10年後市長となるという想定で、「30年後の未来を創造し、10年後市長ならどういう政策を実行するか」というものです。

二つ目は、県議会議員選挙が行われておりましたので、受けていただいた3人の政策をインタビューによりお聞きし、政策評価をするものです。彼らの質問で自分たち世代向けの政策についての質問を熱心に聞いておりました。議員の政策力がわかる結果でした。

三つ目は、私に対する行動改善の提案です。議会の傍聴をしていただき、私に対する改善点を提言してもらいました。これは、夏にも同様の課題を実施しました。



●2019年夏のインターン

4人の学生が来てくれました。

4人とは3つのテーマに取り組みました。

一つ目は、冬と同じくドットジェーピーのテーマで「30年後の未来を創造し、10年後総理ならどのような政策を実行するか」です。今回は市長ではなく総理です。

彼らは未来の働き方を創造し、そのために必要な施策を提案しました。将来、会社に行くという概念はなくなる。場所の概念がなくなれば、日本中どこに住んでも仕事ができる。5GやAIを活用し、仕事は効率化され、労働時間は、1日4時間になるが、仕事量は飛躍的に増える。働き方の改革こそが、少子化などの社会課題の解決になる。そのために必要なことを提案し、幸せと感じる社会の実現の提言をまとめました。

二つめは、「地域活性化とは」というテーマで、地域活性化の定義とその施策の提案、雲をつかむ定義のない地域活性化を彼らなりに可視化し、自分たちのできる行動、行政に取り組むべき課題、地域とともにすべきことをまとめました。大変、面白い議論が政策カフェでもできました。

三つめは、私に対する行動改善の提案です。冬同様に私の行動改善の提案をいただきました。

嬉しいことがありました。

彼らは、「30年後の未来を創造し、10年後総理ならどのような政策を実行するか」の広島予選で3位、活動全体の成果発表の場で、広島大会で1位(21事務所中)になりました。

これらの結果は、私の調査研究を加えて、三原市への提案、一般質問の場でも提言いたしました。



参議院選挙について

2019年夏に参議院議員選挙がありました。私は、溝手顕正先生を応援させていただきましたが、大変残念な結果となりました。

溝手先生におきましては、私たちの活動を気にしていただいたと同時に、毎年、要望事項を聞いていただきました。お伝えしていなかったことが悔やまれますが、必ず答えをいただける数少ない国会議員の先生であったということ。三原の現状を、市議会議員よりも知っておられ、ご尽力いただいたということ。

今までの先生の活動や功績が消えるわけではありません。私は、今後も、ご指導ご支援いただきながら議員活動を行っていきます。

一般質問報告

2019年も4回質問を行いました。なお、当選以来、皆勤で行っている議員は同期(2期目)では私のみ、1期目はすでに0人です。私よりはるか先を走っておられるのは、寺田議員と高木議員です。追いつくことは出来ませんが、私は継続して、一般質問の場でも課題解決と説明責任を果たします。

質問することは、打席に立つこと。打席に立たないバッターにヒットは打てません。

一般質問することは、議員になった以上当たり前のことです。2019年をダイジェストで報告させていただきます。

テーマは以下のとおりです。

2019年3月

- 1 平成31年度施政方針について
 - (1) 本市が将来目指す姿について
 - (2) 働く場づくりの挑戦について
 - (3) 住み良さ向上への挑戦について
 - (4) 持続可能な魅力ある三原とは
- 2 災害時の障害者に対する支援について
 - (1) 支援体制の整備について
- 3 メディアリテラシー教育について
 - (1) インターネットメディアにおけるメディアリテラシー教育について

2019年6月

- 1 産学官(大学)連携事業について
 - (1) 現状及び過去の状況について
 - (2) 研究課題の抽出方法について
 - (3) 課題解決と市民への還元について
- 2 本郷産業団地の企業立地に伴う人口獲得施策について
 - (1) 企業の誘致状況の詳細について
 - (2) 人口獲得における施策について

2019年9月

- 1 ブロック塀対策について
 - (1) 現状の認識と対応について
 - (2) 助成制度の創設について
- 2 倒壊危険空き家対策について
 - (1) 助成制度の効果及び運用状況について
 - (2) 命令、行政代執行への考え方について

2019年12月

- 1 三原市人口ビジョンについて
 - (1) 目指すべき方向性について
 - (2) 地域別の人口計画について
 - (3) 本市独自の施策について
- 2 プログラミング教育の必修化に向けた取り組みについて
 - (1) 取り組み状況と進捗について
 - (2) 先進的な知見の取り込みについて

大きく言うと人口問題が課題の中心でそれに関連する空家問題、工業団地誘致に伴う獲得施策の課題を質問しています。

また、日々の地域活動のご意見から、ブロック塀対策問題と空家問題を質問しています。

プログラミング教育については、将来の三原の強みという部分で、新たな子どもの教育のカチを取り上げています。

一般質問報告

人口問題

私は、人口問題を大きなキーワードとしてとらえています。

この課題解決のスパンを30年で考え、ちょうどいい田舎、人口10万人で暮らしやすい街を創造してくことをずっと述べています。

本郷産業団地の企業誘致が決定したことに伴い、人口の獲得施策をしっかりと検討して頂きたいということです。あやめが丘の住宅団地が空いているから販売促進しますというのではなく、先述の施策を含めて、移住して来られる方のライフスタイルにあった様々な移住の選択肢があること。三原で働く人たちには、誘致企業を通じて一番に三原市が声をかけて、魅力を伝えることが重要です。RESAS*を大まかにみってみると、尾道から三原に移住する人口は転入超過です。三原から東広島に移住する人口は転出超過です。人口獲得施策については、市役所内の組織で多様な検討がなされるようになったと聞いています。また、経済部を中心に私から意見交換の結果の報告や提案を行っています。

議員としては政策研究の成果を今後も提案していくことを行います。

一人の担い手としては、大きなことは出来ませんが、本町や中心市街地を中心に人口獲得につながる活性化の活動(事業化も含めて)を行っています。

※RESAS(リーサス)とは…日本・内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のいわゆるビッグデータを集約し、可視化を試みるシステムである。

人口問題にこだわる訳

1

都市の生き残りの基準は人口。

2

総務省は10万人以下の人口規模は、都市機能が維持できないと考えている。

3

施策を実行していくうえで、人がいないと逆境脱出のシナリオも描けない。



倒壊危険空家について

このテーマも複数回質問しています。これから問題になるのは、活用ではなく、除却(撤去)です。活用は別の機会に取り組んでいますが、議会での質問は、除却を大きな課題としています。

住宅戸数は新築の家が増える一方で、人口は減少し、空家は増えています。管理がされていない放置されたものは増える一方です。権利関係の複雑化も問題になっています。

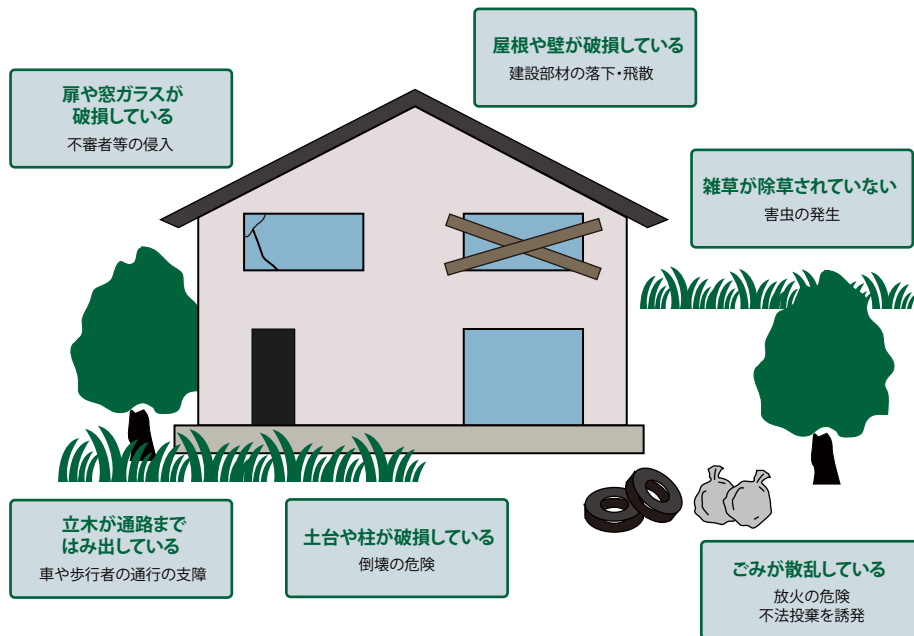
私が問題提起をしたのは、次のステップです。

三原市は倒壊危険空家の数は順調に減っています。市の仕事はうまくいっているとも言えます。

一方で、倒壊寸前で撤去されないものは、残っています。そして、倒壊危険空家について法律で指導できるのは行政だけです。

空家特措法においては、倒壊機関空家に認定した家で、指導→勧告→命令→強制代執行というプロセスで除却を推進することができます。但し、代執行はあくまでもやむおえない場合で勧告の段階で固定資産税の減免措置を外すことができます。現在、指導の段階でとどまっており、本当に危険な空家が市内に数件、放置された状態で残っています。

この状況を解決するために、再度問題提起をいたしました。2020年以降は、指導までにとどまらず、次の段階に進みます。もちろん所有者が撤去に応じれば、勧告命令までに行かないかもしれませんが、放置されたものは次の段階に進みます。空家が除却されれば、新しい家ができます。街がきれいになります。そういうことも考え、再生不能なものは除却(撤去)されるべきです。この問題も引き続き追いかけていきます。



ブロック塀対策について

一昨年、大阪で起こった大阪北部地震のブロック塀倒壊で少女が亡くなった事故に対し、市民の皆様からよせられた要望でした。実現にむけてのいい回答をいただけるまで、1年以上かかりました。

一般質問を行う前に、全国の他の自治体の事例を調べ、制度などが良い東京都葛飾区へ視察に伺うなどして、提案をいたしました。結果、2020年度に予算化されることになりました。一昨年の段階では、個人の資産に助成？など消極的な見解でしたが役所側も2020年度、幹線道路、通学路等に限って助成制度をつくることとなりました。余談ですが、三原市は、広島県内では早い段階で制度実現と言えますが、東京都は23区はすべての区で市町も含めてほとんど制度を持っているとのこと。この付近は広島県と東京都の認識のちがいでしょうか。引き続き追いかけていく課題です。

その他

そのほか、2020年度から必須化されるプログラミング教育について、提案を行いました。教育委員会と協議の段階ですが、プログラミング教育においては、民間団体で総務省が認定する全国トップランナーの担い手がいます。どうか学校教育現場でも生かしたいと考えています。

メディアリテラシー教育。ある意味私の得意分野かもしれません。ネット社会でどう情報の取捨選択をするか？私は、問題認識として、災害時にあっという間にデマが拡散したこと、人権問題など。ネット社会のプラスの部分とマイナスの部分を明らかにしながら、教育・啓発を行う準備をしていただきたいと提案しました。

ここは担い手としても知見をもっていますので内容的なものについても提案していきます。

一般質問は、2020年も引き続き、市民の皆様の課題解決のために行っていきます。直接でも政策カフェでもご提案いただけると幸いです。

正田洋一の「日々の絆」— 2

西国街道魅力ある街並みづくりプロジェクト

2018年から始まった、本町西国街道魅力あるまちなみづくり事業ワークショップ全6回が終了いたしました。本件は広島県および三原市に支援していただきスタートしたプロジェクトですが、全6回のワークショップを通じて、まちの皆さんとともに自分たちを街のどのようになりたいかについて話し合い、一つのアウトプットがまとまりましたので、これからがスタートです。2020年は住民の手で本町地区が生まれ変わる元年になります。

私は、本ワークショップの最後に運営組織(案)について提案させていただきました。様々ご意見をいただきながら、(仮称)本町まちづくり協議会がうまく進んでいくよう決意をあらたにしました。

議員活動ではありませんが、地域の一担い手として結果を出したいと思います。本町はここから10年で地域の皆さんとともに街の景色が変わります。そして美しい街、楽しい街に生まれ変わります。



編集後記

昨年の17号で情報の頻度を少し上げたいと申し上げましたが、議会レポートについてはお約束を果たせませんでした。申し訳ありません。2020年については、4回の発行を公約します。また、SNS(Facebook)での発信、政策カフェなどの意見交換としての頻度は増やすことができました。こちらでもぜひたくさんの皆様と意見交換させていただきたいと思います。特にSNSにつきましては、お気軽にお声掛け(友達申請)ください。

再来年、2021年はいよいよ選挙の年です。しっかりと課題解決と説明責任を更なる見える化し、邁進していきたいと思っています。